

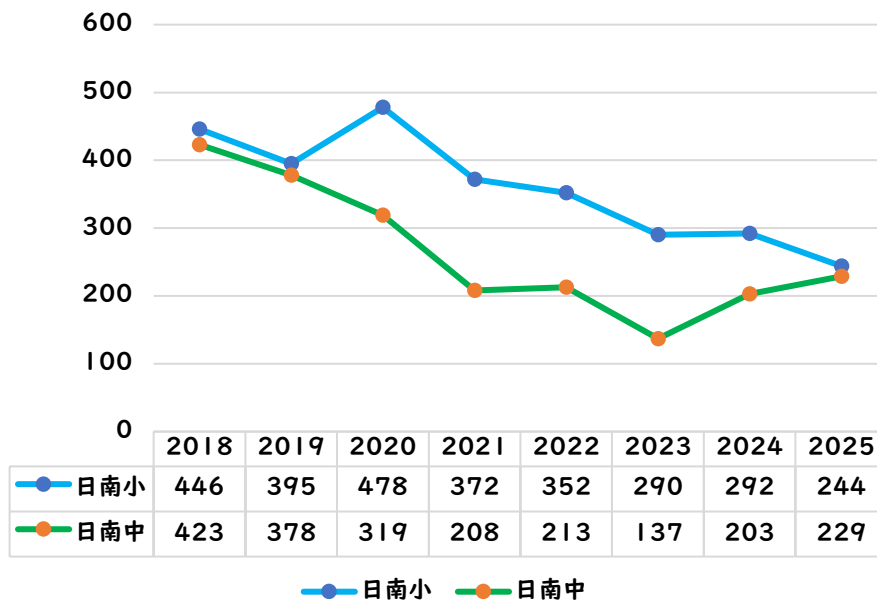
日南町立小・中学校教員の時間外勤務実態について

1. 本資料のデータについて

- ・ 本資料は鳥取県公立学校に導入されている校務支援システム（2017 年 12 月導入）から得たデータに基づくものである。
- ・ 対象教職員は、常勤職員（校長、教頭、教諭、養護教諭、栄養教諭、講師、事務職員）であり、短時間勤務教諭、非常勤講師は含まない。

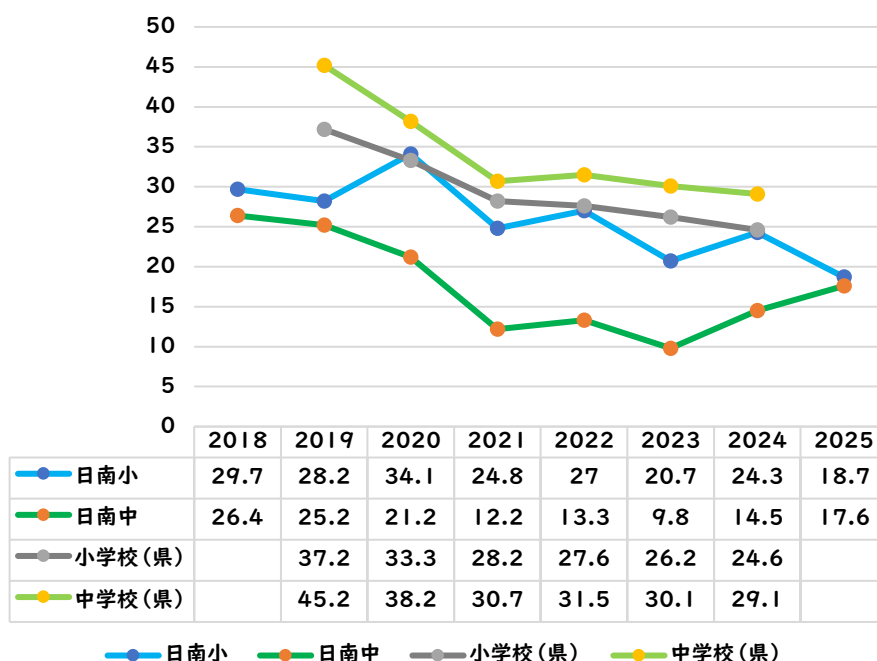
2. 集計結果

年間一人あたりの時間外業務時間



年間一人あたりの時間外業務時間は、小学校・中学校ともに 2018 年度以降減少傾向にあり、特に中学校で大きく改善している。2018 年度に「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」が策定されて以降、勤務時間に対する意識の高まりや業務改善の取組が進んだことが要因と考えられる。

月一人あたりの時間外業務時間

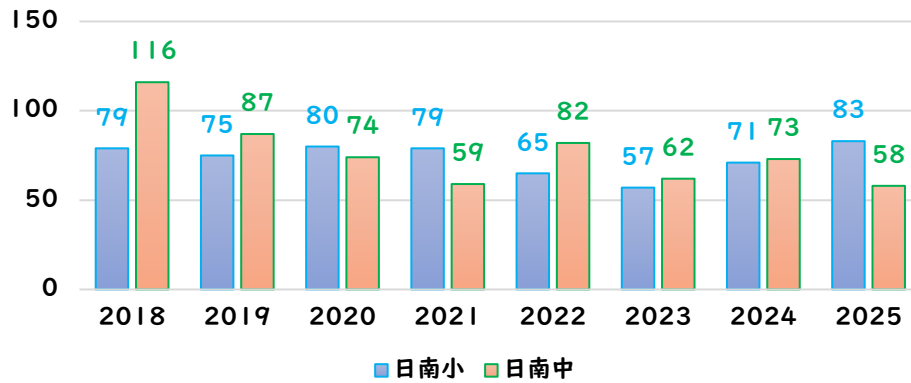


月一人あたりの時間外業務時間は、小学校・中学校ともに県平均を下回る状況が続いている。

本町は小規模校であり児童生徒数が少ないことに加え、遠距離通勤者が多いことなどが要因として考えられる。

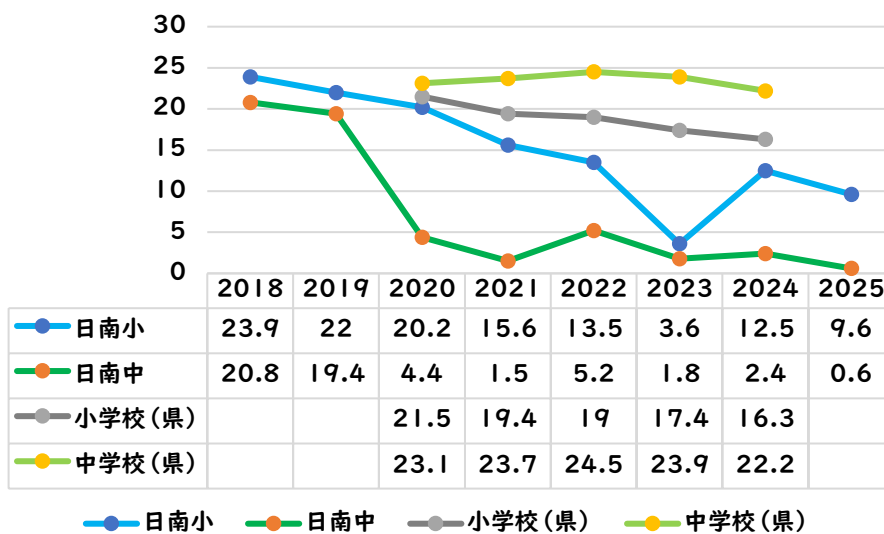
また、中学校については部活動方針の策定により活動時間が制限されたことも、時間外勤務の縮減につながったものと考えられる。

時間外業務時間 最大値



平均的に時間外勤務は減少している一方で、最大値を見ると依然として高い値の職員が存在している。これは時間外勤務の状況に個人差があることを示しており、分掌業務や個々の働き方による影響が大きいものと考えられる。

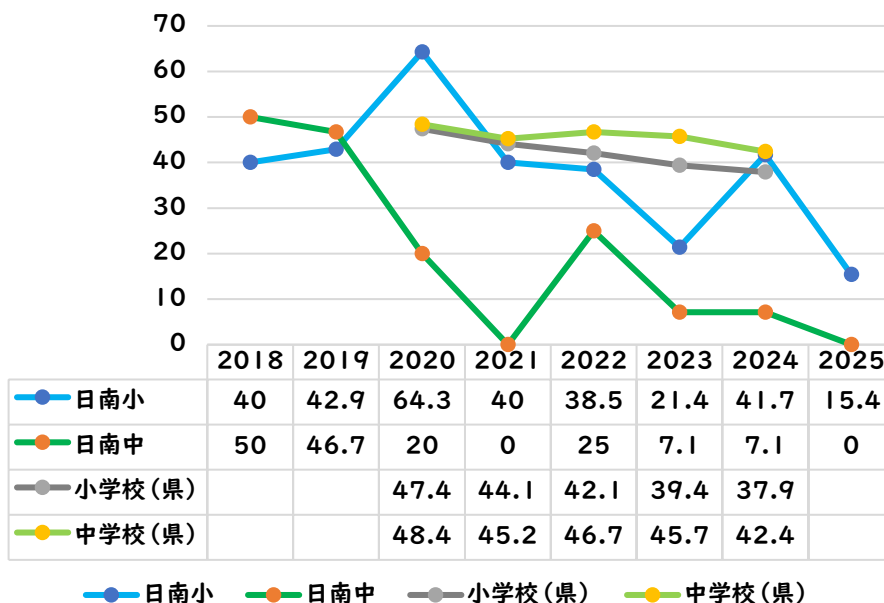
月の時間外業務が45時間を超えた人の割合(%)



月 45 時間を超える職員の割合は、小学校・中学校ともに減少傾向にあり、県平均と比較しても低い水準で推移している。

特に中学校では大幅な改善が見られ、部活動の負担軽減が一定の効果を上げているものと考えられる。

年間の時間外業務が360時間を超えた人の割合(%)



年間 360 時間を超える職員の割合についても全体として減少傾向にあり、中学校では2025年度に該当者がいなくなっている。

一方、小学校では改善が進んでいるものの、依然として該当者が存在している。

なお、2020年度に小学校で割合が増加した背景としては、生徒指導上の問題が多く発生したことによる影響があったと考えられる。